

令和4年度行政事業レビューシート (文部科学省)

世界遺産条約の運用ルール上、	世界遺産普及活用・推薦のための事業推進			担当部局庁	文化庁	作成責任者			
事業開始年度	平成26年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	文化資源活用課	文化資源活用課長 篠田智志			
会計区分	一般会計								
根拠法令 (具体的な条項も記載)	文化芸術基本法 第13条、第14条			関係する計画、通知等	文化芸術推進基本計画 (平成30年3月6日閣議決定)				
主要政策・施策	観光立国			主要経費	その他の事項経費				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	世界文化遺産の推薦件数が各国1年1件に限られ、また、諮問機関の審査が複雑化・厳格化する中、海外専門家との情報交換等を通じ、専門的・技術的に十分な推薦準備を行うことで、我が国の推薦資産の世界遺産リストへの確実な登録を促進する。さらに、登録後においても自国の世界遺産の保全について万全の措置をとることがこれまでに増して求められている中、適切かつ持続可能な保全や発信の取組を充実することで遺産を着実に次世代へ継承し、世界及び日本の文化の発展に寄与する。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	令和3年3月末にとりまとめられた文化審議会世界文化遺産部会「我が国における世界文化遺産の今後の在り方」第一次答申も踏まえ、我が国の推薦案件を確実に世界遺産登録へとつなげるため、世界遺産委員会や国際専門家会合に出席し情報収集、審査傾向の分析等を行う。また、暫定一覧表記載資産が提案内容の精緻化のために行う国際専門家会議等に技術的助言・開催支援を行うほか、暫定一覧表の改定に向けて必要な調査・研究・分析等を行う。さらに、登録後の適切かつ持続可能な保全の取組を強化するため、遺産影響評価(HIA)の手法・分析や周辺環境に応じた世界遺産の在り方などを含む最新の海外専門機関の議論・動向を分析し、指針等の作成を行う。また、得られた情報を広く国内関係者へ周知するにあたり、シンポジウム等の開催やホームページ、SNS等を通じて情報発信を積極的に行うとともに、世界遺産パンフレットの作成などを通じ、我が国が誇る様々な文化遺産の国内外への発信を強化する。								
実施方法	直接実施、委託・請負								
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	75	70	66	59	59		
		補正予算	-	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
		計	75	70	66	59	59		
	執行額	51	55	50					
	執行率(%)	68%	79%	76%					
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)	68%	79%	76%					
令和4・5年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	令和4年度当初予算	令和5年度要求	主な増減理由					
	庁費	18	18	※金額は単位未満を四捨五入して記載していることから、合計が一致しない場合がある。					
	職員旅費	17	17						
	文化芸術振興委託費	16	16						
	委員等旅費	5	5						
	諸謝金	2	2						
計	59	59							
活動内容 (アクティビティ)	世界遺産の推薦と登録後の世界遺産の保全を確実に進めるために、ユネスコ世界遺産委員会や遺産の保存・管理等に関する各種専門家会議、世界遺産暫定一覧表に関する各種会議等に参加するもの。								
活動目標及び活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	5年度活動見込
	世界遺産への登録推進及び登録後の保存管理に関する取組を継続する。	世界遺産条約関係会議及び暫定一覧表記載案件に関する国際専門家会議等への出席回数	活動実績	回	19	11	10		
			当初見込み	回	17	17	17	17	17
単位当たりコスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	
	世界遺産条約関係会議等への出席に必要な職員旅費 執行額/実績回数・人 ※前年度の実績は決算額に基づき7月頃確定後、記載予定			単位当たりコスト	千円	266	111	184	483
				計算式	執行額/実績回数・人	9,833/37	1,221/11	3,134/17	16,928/35
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 4年度	目標最終年度
	推薦資産の世界遺産リストへの確実な登録を推進する	世界文化遺産登録件数	成果実績	件	1	0	1	-	-
			目標値	件	1	0	1	0	-
		達成度	%	100	-	100	-	-	

根拠として用いた統計・データ名 (出典)	Decisions adopted by the World Heritage Committee at its 44th session (Fuzhou, China) ※令和4年度は我が国の推薦資産に関する審議は予定されていない。									
活動内容 (アクティビティ)	世界遺産の確実な保存と活用の促進を検討するため、国際専門家会議等の開催及び調査研究等を行う。									
活動目標及び活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	5年度活動見込	
	世界遺産に関する調査研究が継続され、最新の動向を踏まえた保存と活用がなされる。	登録及び保全に資する調査研究事業及び世界遺産に関する国際専門家会議実施件数	活動実績	件	2	1	2			
			当初見込み	件	2	2	2	2	2	
単位当たりコスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込		
	調査研究事業費及び世界遺産に関する国際専門家会議等に要する経費／事業数 ※前年度の実績は決算額に基づき7月頃確定後、記載予定			単位当たりコスト	千円	7,135	9,350	5,473	4,180	
				計算式	執行額 / 事業数	14,269/2	9,350/1	10,946/2	4,180/1	
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 4年度	目標最終年度 -年度	
	既登録の世界文化遺産を保全し次世代へ確実に継承していく	既登録の世界文化遺産数	成果実績	件	19	19	20	-	-	
			目標値	件	19	19	20	20	-	
			達成度	%	100	100	100	-	-	
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	The World Heritage List (Cultural)									

政策評価・新経済・財 政策評価・新経済・財	政策	12 文化芸術の振興		
	政策評価			
	施策	12-1 文化芸術の創造・発展・継承と教育の充実	政策評価書 URL	https://www.mext.go.jp/content/20211224-mxt_kanseisk02-000019646_12-1.pdf
			該当箇所	達成目標3

事業所管部局による点検・改善

	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	世界文化遺産への推薦・登録の積極的推進は文化芸術推進基本計画にも位置づけられており、また、我が国の推薦案件が世界文化遺産に登録されることは国民や社会の高い関心事項であることから、国民や社会のニーズを的確に反映しているといえる。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	世界文化遺産への推薦・登録の積極的推進は文化芸術推進基本計画にも位置づけられており、また、我が国の推薦案件が世界文化遺産に登録されることは国民や社会の高い関心事項であることから、国が実施する必要がある。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	政策目標12(施策目標12-1「文化芸術の創造・発展・継承と教育の充実」の達成目標3「貴重な国民的財産である文化財を適切に保存し、次世代へ継承するとともに、積極的な公開・活用を通じて、広く国民が文化財に親しみ、その価値への理解を深めるようにする。」)の達成手段の1事業に設定されており、優先度は高い。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	一般競争入札や企画競争を行うことで、競争性を確保し、効果的・効率的なコスト削減等の予算執行に努める。今回1者応札となった案件については、公告期間を十分に確保するなど引き続き競争性の確保に努める。
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	有	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	-
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	謝金・旅費は文化庁の基準単価を適用しており、妥当なコスト水準を保っている。世界遺産委員会など、国際会議の開催についてはその時々の世界情勢や世界遺産を巡る情勢に応じて旅費や会議開催回数も変わるため、単位当たりコストは一定とはならない。また、R3年度も前年度までと同様、新型コロナウイルス感染症の影響等で本来対面で開催される国内外の会議がオンラインに移行したためにコロナ前の水準には至らなかったものの、対面開催となったものについては積極的に参加したため、前年度に比べ執行額が増加している。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	-
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	各事業の要項等の中で、経費について細かく規定することで、費目・使途を限定している。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○	新型コロナウイルス感染症の影響等により、当初見込んでいた国内外の会議のオンライン移行、あるいは規模の縮小や一般競争入札の実施による執行額の減等により不用が発生したものの。
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-	
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	執行状況を適宜確認しながら計画的・効率的な執行に努めている。	

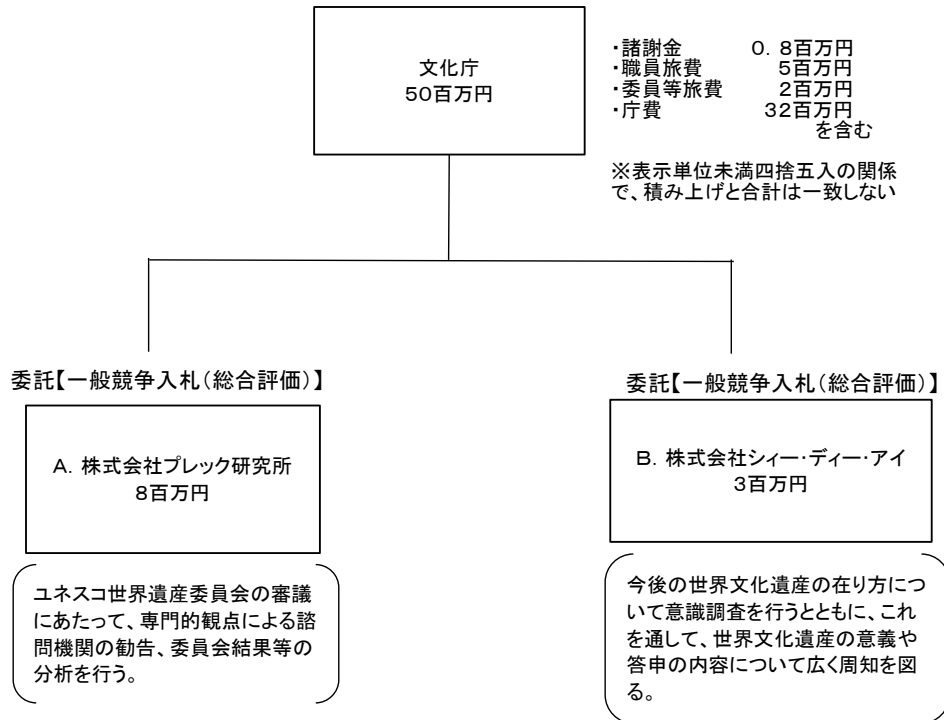
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	世界遺産条約の運用ルール上、世界遺産の推薦枠は1国につき年1件と制限されており、年に1件の世界遺産登録は最大限の目標であり、登録審査が年々厳格化している中、コンスタントな登録実現という十分な成果実績を上げている。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	事業を行うに当たって入札を実施する等、事業費の適正化及びコスト削減に努めている。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	△	新型コロナウイルス感染症の影響等により、国内外の会議が中止又はオンライン開催へと代わったこと等により不用品が発生した。 一方で、文化審議会世界文化遺産部会で「我が国における今後の世界文化遺産の在り方」の議論が始まったことにより、議論に必要となる調査研究事業を行うなど、必要性に鑑み事業を実施することができた。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	調査研究成果を文化庁HPに掲載している。
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	
	事業番号		事業名
点検・改善結果	点検結果	本事業は、我が国が推薦する世界文化遺産の登録を促進し、また、既登録の世界文化遺産の保全・活用等を通じて、我が国の文化遺産の国内外への普及・活用の促進を図るものであり、もって我が国の文化芸術振興に寄与するものである。また、契約の競争性・透明性を確保するとともに、執行の効率化に務めている。	
	改善の方向性	引き続き計画的な執行を行う。広報活動を通じて、一層、国内外における我が国の世界文化遺産への理解が深まるよう努める。	
外部有識者の所見			
外部有識者による点検対象外			
行政事業レビュー推進チームの所見			
の事業改善部内改善	この事業は、令和3年度決算において多額の不用額が生じていることから、不用額が生じた要因を分析したうえで、計画的な予算執行を行うべきである。		
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況			
執行善等改善	R3年度も前年度までと同様、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響等で本来対面で開催される国内外の会議が中止又はオンラインに移行したため、不用額が発生している。 R5年度概算要求については、国際会議等の対面開催への回復状況を考慮しつつ、必要な経費を精査し、必要と見込まれる額を計上した。なお、その他費用でも縮減が可能な経費についてはR4年度要求段階で一定の縮減を行っている。		
備考			
文化遺産オンライン該当ページ: https://bunka.nii.ac.jp/special_content/world 調査研究成果掲載ページ: https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/sekai_isan/hokokusho.html			

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成23年度	-			
平成24年度	-			
平成25年度	新26-0040			
平成26年度	26-0039			
平成27年度	389			
平成28年度	367			
平成29年度	375			
平成30年度	372			
令和元年度	文部科学省 - 0360			
令和2年度	文部科学省 0362			
令和3年度	2021 文科 20 0390			

※令和3年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位: 百万円)



費目・使途
(「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で表情が分かるように記載)

費目	A.株式会社プレック研究所		B.株式会社シー・ディー・アイ		
	使途	金額 (百万円)	使途	金額 (百万円)	
人件費	事前資料・世界遺産委員会議事概要・報告書作成に係る人件費	6	人件費	システム設計・デザイン支援に係る人件費	2
事業費	国際会議への出席に係る旅費、印刷製本等	1	事業費	意見聴取謝金、専用サーバー設置費用等	0.7
一般管理費	一般管理費	0.7	一般管理費	一般管理費	0.3
計		7.7	計		3

